

令和5年度

第1回 総合教育会議

アフターコロナの

学校生活について

▶ 学校教育 日常生活の変化

感染症対策：国の衛生管理マニュアルに準ずる

	3月末	4月以降	5月8日以降
国・県	卒業式のみマスク外すことも可能	マスク着用は求めない 濃厚接触者は5日間待機	マスク着用は求めない 濃厚接触者特定なし
西宮市	卒業式のみマスク外すことも可能	マスク着用は求めない 濃厚接触者は5日間待機	マスク着用は求めない 濃厚接触者特定なし

	2類（5月7日以前）	5類（5月8日以降）
・発熱等の風邪症状	出席停止	病欠欠席
・陽性と判断された	出席停止（7日）	出席停止（5日）
・臨時休業、学級閉鎖	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校園からの報告 ・ 感染に広がり有り ⇒ 閉鎖（校医相談） 	校医に相談
・儀式的行事 体育・文化行事	<ul style="list-style-type: none"> ・ 座席間の距離 ・ 前方1m、左右50cm 	特に制限なし

《保健衛生》

① マスクの着用率（マスクの着用を求めないことを基本とする）

～4月以降 → まだ **高い**

～5月8日以降の状況 → 小学校**低学年** → **低**
高学年～高校 → **高**

7月に入り気温上昇と共に 着用率 → **低下傾向**

② 感染者数・学級閉鎖等の状況

→ 4月の1日平均陽性者数**0.8**人。 **学級閉鎖なし**

→ 5月8日以降 感染者把握しない。

学年閉鎖3 学級閉鎖12

《教育活動》

① 学習活動 ～コロナ禍での配慮

・ 座席配置、ペア学習、グループ学習 ～距離・時間・換気

➔座席は前向きだが、話し合い活動は復活（換気）



《教育活動》

・理科実験・家庭科調理・音楽・体育 ～人数・時間・換気

➔ 換気や間隔に気を付けながら通常どおり実施



《教育活動》

- 水泳～事前学習、人数・時間、指導安全体制、更衣、入水
➡ 基本的な感染防止対策を講じながら、通常の実施へ



《教育活動》

・給食

～距離・換気・会話

➔ 換気や間隔に気を付けながら通常どおり実施



《教育活動》

- ・ タブレット活用（学級閉鎖時の活用）
～ 会話・健康観察・学習課題の提示・相談対応
・ オンライン学習・翌日への連絡等
- ➔ 学級閉鎖時だけでなく、
通常の授業での活用の拡大



小1生活科
カレンダーの作成

小2生活科
植物の観察



ミニトマトの撮影



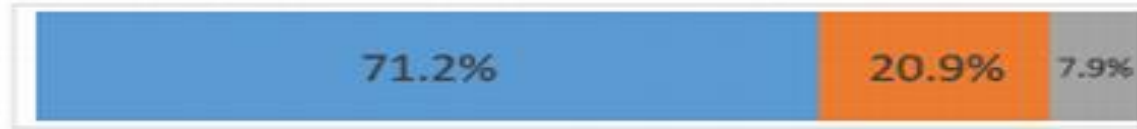
シナリオカード

・緊急時のタブレット活用について 令和4年度

7月上旬：研修内容を検討するため、教員に対してアンケート実施

問12 【緊急時のオンライン配信等の支援について】学級閉鎖時、Microsoft Teamsを使い、オンライン学活ができる。

回答	3	2	1	計
	361	106	40	507
	71.2%	20.9%	7.9%	



問13 【緊急時のオンライン配信等の支援について】学級閉鎖時、Microsoft Teamsを使い、授業配信ができる。

回答	3	2	1	計
	304	144	59	507
	60.0%	28.4%	11.6%	



問14 【緊急時のオンライン配信等の支援について】新型コロナウイルス感染症に起因した欠席者に、Microsoft Teamsを使い、授業配信ができる。(ライブ配信)

回答	3	2	1	計
	283	156	68	507
	55.8%	30.8%	13.4%	



回答選択肢の意味

3:操作ができ、使用したことがある。2:操作ができるが、使用したことはない。1:操作ができないので、使用したことはない。

問12：92.1%が学級閉鎖時に「オンライン学活ができる」

問13：88.4%が学級閉鎖時に「授業配信ができる」

問14：86.6%が「欠席者に対し、授業のライブ配信ができる」

《教育活動》 教員のICT活用～校務改善の観点から～

- ・ **Microsoft Teamsの活用**

コロナ対応としてのオンライン会議の浸透

⇒会議の精選

- ・ **欠席連絡システムの導入**

コロナ対応として導入（連絡帳手渡しを避ける）

⇒朝の電話連絡が減少

- ・ **採点支援システムの活用（中学校）**

延べ1週間かかっていた作業

⇒導入後半日で終了したという実績あり

② 行事

- ・ 授業参観、懇談会、体育会、音楽会、図工展
～参加人数・日程・時間・受付体制・設備準備・練習体制
➔ コロナ禍の取組を活かし、実施予定
(授業参観者の分散、体育会の分散実施など)
- ・ 校外学習・自然学校・修学旅行
～移動手段・現地の感染防止対策
➔ 基本的な感染防止対策を講じながら、通常の実施へ

・ 自然学校

令和4年度

・ 2泊3日+2日間の日帰り

・ 5/18～開始

・ 宿泊：山東自然の家（37校）
丹波少年自然の家、南但馬自然学校

・ 日帰り：校内外を含めた取り組み
山東自然の家出張プログラムも活用

・ 2泊3日の宿泊で実施。2回の日帰りの活動が充実するように、令和3年の実績を全校へ周知した。

令和5年度

・ 4泊5日

・ 5/8～開始

11月まで

・ 宿泊：山東自然の家（37校）
淡路青少年交流の家（3校）
南但馬自然学校（1校）

• 自然学校



・トライやる・ウィーク

令和4年度

・連続した5日間の実施

・令和3年度中に実施したアンケート（抽出）から、学校に協力できると回答した事業所が80%以上に上がることが分かった。

・事業所での実施

・事業所+学校での実施

- ①生徒が主体的に地域とつながり、学びに生かせる取組み。
- ②事業所等の受入先での活動を振り返ったり、まとめたりする取組み

・学校規模に応じて、全員もしくは分散させて事業所を訪問した活動を計画。

令和5年度

・連続した5日間の実施

5/15開始
生徒が主体的に地域とつながり、学びに生かせる取組み
12月まで

・事業所での実施が基本

・受け入れ事業所の確保のための事業所バンク

・ トライやるウィーク



・修学旅行

令和4年度

全校実施

- ・小・義：全校 1泊2日
- ・中・義：1泊3校、2泊17校
- ・支援：1泊
- ・高校：3泊

・行先

小学校：広島方面、鈴鹿方面

中学校：京都・滋賀、信州・北陸、
和歌山、愛知・三重 等

令和5年度

全校実施

- ・小・義：全校 1泊2日 5/10開始
- ・中・義：**全校 2泊3日** 5/8 開始
- ・支援：1泊 10月
- ・高校：3泊 10月、12月

・行先

小学校：広島方面、鈴鹿方面

中学校：京都・滋賀、信州・北陸、
四国、九州 等

• 修学旅行



▶これからの学校のあり方

「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」をはぐくむ
～子供の主体的な学びを目指して～

☆ **日常の学習の工夫**（個別最適な学び、協働的な学び）

少人数・ペア・グループ学習、
ICTの活用、特別活動（縦割り活動）

☆ **各種行事の工夫**（市全体の行事含む）

ゆとりある活動と授業時数の確保 → 「教育課程検討委員会」

これまでの教育課程検討委員会での協議内容

I 平成29年度～令和元年度 ～ H29公示 学習指導要領を受けて

II 令和3年度～令和4年度

(1) 全市的な行事などの見直し

…**全市的行事検討委員会を開催、見直し内容を実施**

(2) 長期休業日の短縮

夏季休業中の最終2日間を短縮する。

3学期の始業を1月7日とする。

令和2年度から令和4年度までの3年間で試行的に実施する。

…**コロナ禍であったために効果の検証が不十分**

⇒**試行を延長し、効果を検証する。**

令和5年度 教育課程検討委員会での協議予定

(1) 長期休業期間の検討

- ・ 現在：夏季休業日2日、冬季休業日1日短縮。

➡ **授業時数確保のため**

- ・ 春季休業期間の延長の検討

➡ **教職員の年度初めの準備時間の確保のため**

(2) 中学校3年生について

- ・ ゆとりある週時程・行事・テストの検討
- ・ **卒業式日程の検討**

☆指導体制の課題

△教員の未配置（特別支援学級増、生活学習相談員の配置増、育休・病休の職員など）

△多様な児童生徒・保護者への対応
（担任だけでは難しい）

➔学校の指導体制の検討（職場の協働体制の必要性）

	学級担任制	教科担任制	チーム担任制
メリット	児童生徒・保護者との丁寧で深い関係づくり。信頼	様々な教員と児童生徒の関係づくり。	複数の教員による児童生徒との関わり
デメリット	一旦トラブルになると、関係復旧がしにくい。	教員の専門性、児童生徒の情報の共有が必要	児童生徒の情報共有、個別対応の分担も必要